

平成22年度土木学会選奨土木遺産 認定

○ 土木学会選奨土木遺産認定制度の概要

土木学会選奨土木遺産認定制度は、土木遺産の顕彰を通じて歴史的土木建造物の保存に資することを目的として、土木学会が平成12年度設立した制度です。

認定の結果として、(1) 社会へのアピール(土木遺産の文化的評価、社会へ理解等)、(2) 土木技術者へのアピール(先輩技術者の仕事への敬意、将来の文化財創出への認識と責任の自覚等の喚起)、(3) まちづくりへの活用(土木遺産は、地域の自然や歴史・文化を中心とした地域資産の核となるものであるとの認識の喚起)、(4) 失われる恐れのある土木遺産の救済(貴重な土木遺産の保護)、などが促されることが期待されています。

○ 平成22年度 いばらき建設技術研究会(土木学会関東支部茨城会)の推薦により茨城県内の以下2本の橋梁が、平成22年10月 土木学会選奨土木遺産の認定を受けました。

1. 大手橋(おおてばし):水戸市道205号

所在地 : 水戸市三の丸 完成年 : 昭和10年

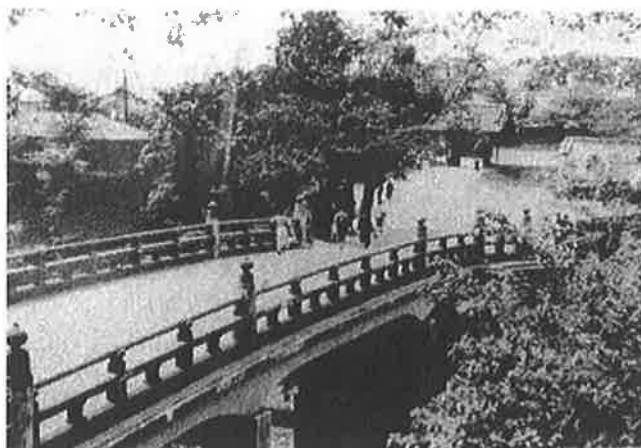
諸元・形式等

全長 : L=22.8m 全幅 W=6.1m

上部工 : 鉄筋コンクリート 下部工 : 橋脚高9.9m, 一部石, イギリス積み煉瓦造り

<受賞理由>

- ・初代の大手橋は17世紀の初め、水戸城の拡張に伴い、水戸藩の政庁のあった二の丸と三の丸とを堀を渡り連絡する橋として大手門と同時期に建設された。その後、幾多の架け替えが行われ、現在の橋は、昭和10年に鉄筋コンクリート造りの橋として架け替えられたものである。
- ・大手橋は、藩政時代、水戸城大手門と一体となって威厳を誇ってきた歴史があり、この架け替えにあたっては、藩政時代の様式に戻しつつ、耐久性を考慮し、昭和初期の最新技術であった鉄筋コンクリート橋として蘇らせたものである。
- ・現在では、水戸城の郭や三の丸地区に立地する弘道館(水戸藩の藩校、重要文化財)を巡る水戸城址通りの拠点として市民に親しまれている。
- ・また、橋が位置する三の丸地区は、水戸市景観計画(景観法)や水戸市歴史風致維持向上計画(歴史まちづくり法)では、重点整備地区に指定され、水戸城跡や弘道館などの歴史的資源を維持・活用しながら、水戸市の顔として、やすらぎとにぎわいに満ちた風格のあるまちづくりを進めることとしている。



<昭和10年架け替え当時の大手橋>



<現在の大手橋>

2. 央橋（なかばし）：常陸太田市道 7067 号線

所在地：常陸太田市春友町 完成年：昭和 12 年

諸元・形式等

全長：全長 34.0m 全幅 W=6.0m

鉄筋コンクリート造りローゼ橋

<受賞理由>

- ・央橋は、常陸太田市町屋町に位置し、旧棚倉街道（旧国道 349 号）の里川に架かる橋である。棚倉街道（国道 349 号）は、現在、バイパス化されており、央橋は市道橋となっている。
- ・この道筋は、水戸を起点に常陸太田を経て福島県棚倉町へと通じる街道で常陸の国と奥州を結ぶ交通路として古くから開かれた。江戸時代からは、棚倉街道と呼ばれ、沿道には宿場や一里塚が設けられ、当地域には町屋宿が置かれた。
- ・町屋地区には、今でも昔の宿場の面影が残り、道行く者になつかしきを感じさせる。央橋は、この宿の出入り口に位置し、今でもランドマークになっている。
- ・また、央橋は、そのユニークな形から、地域では、「めがね橋」の愛称でも親しまれている。
- ・今から半世紀以上も前に、こうした橋を架けたという事実に、この地域の人々の街道に寄せる思いの深さを感じる。
- ・町屋地区では住民が中心になって「河内の文化遺産を守る会」をつくり、地元に残る歴史的建築物や央橋の保全に努めるとともに、毎年、秋にはこの山紫水明の地で、これら地域資源をライトアップし、都市住民との交流を図るイベントを開催している。



<央橋の全景>

○ いばらき建設技術研究会（土木学会関東支部茨城会）について

いばらき建設技術研究会は、本県の産・学・官の建設技術者等が建設技術に関する本県の課題やその対応方策などについての調査、研究や会員相互の研鑽により地域のニーズに適確に対応しうる建設技術の育成を図るために組織された研究会です。

引き続き土木学会選奨土木遺産の認定制度の積極的な認定申請を進めていきたいと考えておりますので、皆様からの情報提供をいただけると幸いです。

どぼくがつかい せんしょう どぼく いさん へいせい ねん がつ にんてい
土木学会・選奨土木遺産 平成22年10月認定(1)

いばらき建設技術研究会・土木学会関東支部茨城会

めい しょう 名称	おおて ばし 大手橋	しよざいち 所在地	いばらきけん みとし さん まる 茨城県水戸市三の丸
かんりしゃ 管理者	みとし しどう ごうせん 水戸市(市道205号線)	しゆんこうねん 竣工年	しやうわ ねん 昭和10年
しよ げん 諸元	ぜんちやう ぜんふく 全長22.8m 全幅6.1m じやうがこう てっきん 上部工：鉄筋コンクリートづくり かぶ こう いちぶ いし 下部工：一部石づくり、イギリス積み煉瓦づくり		
じゆしやうりゆう 受賞理由	はんせい じだい じやうしき けいしやう てっきん づく はし 藩政時代の様式を継承しつつ、鉄筋コンクリート造りの橋とし て架けかえられたもので、水戸城趾通りの拠点として親しま れている。		

おおて ばしは、みとじやうに まる から みと ほんこう 弘道館のある三の丸の間の堀にかけられた橋で、昭和10年にかけて替えられて現在に至っている。この道は、「水戸城趾通り」と呼ばれ、みと 市の史跡を巡るコースとなっている。へいせい 12年には、ほぞう こうじ 補強工事が施されている。



おおて ばし
大手橋の位置



めいし しょき さん まるがわ に まるがわ のぞ
 明治初期、三の丸側から二の丸側を望むと大手橋の向こうに大手門があった



おおてもん てつきま げんざい おおて ばし
 大手門が撤去されている現在の大手橋



しゆんこう とうじ おおて ばし
 竣工当時の大手橋



げんざい おおて ばし から こうぞう
 現在の大手橋の下部構造



さん まるがわ から さん まるがわ こうどうかん のぞ
 三の丸側から三の丸側(弘道館)を望む



さん まるがわ から さん まるがわ しょうめんは 土塁 のぞ
 三の丸側から三の丸側(正面は土塁)を望む
 道路は、土塁手前を左手に進む

どぼくがっかい せんしょう どぼく いさん へいせい ねん がつ にんてい
土木学会・選奨土木遺産 平成22年10月認定(2)

いばらきけんせつぎじゆつけんきゆうかい どぼくがっかい かんとうしふ いばらきかい
 いばらき建設技術研究会・土木学会関東支部茨城会

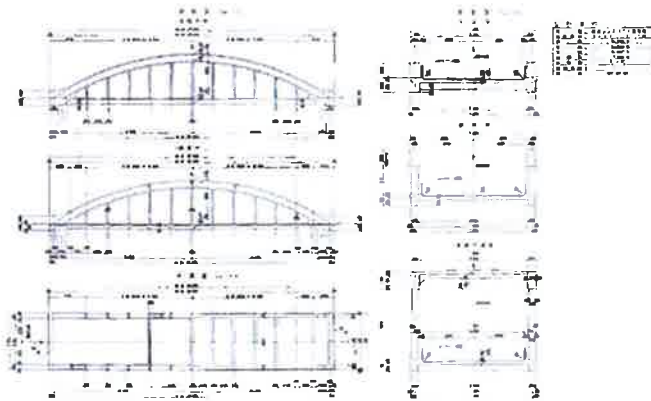
名称	央橋	所在地	常陸太田市(旧里美村)
管理者	常陸太田市(市道7067号線)	竣工年	昭和12年
諸元	全長34.0m 全幅7.6m 鉄筋コンクリート(ローゼ橋)		
受賞理由	旧棚倉街道の里川に架かり、当時としては画期的な造形美を誇り、山紫水明の地に美しく映えるアーチのローゼ橋。		

央橋は、水戸から北へ向かう棚倉街道の里川にかけられた橋で、現在は、新たに国道349号バイパスができて、市道となっている。

この橋は、昔の面影が残る町屋町の宿の入り口にあり、地元では昔から「めがね橋」の愛称で親しまれており、秋のイベントにはライ



央橋の位置



央橋の寸法図



秋景色の中の央橋



秋のイベント



平成22年度 選奨土木遺産認定書並びに銘板の授与について

H22年11月19日（金）

1. 本年度茨城県で選奨土木遺産に認定された2カ所について、平成22年10月24日付で土木学会本部から交付された認定賞状について、本来なら水戸市、常陸太田市に安原会長に出向いてもらう予定でしたが、丁度海外出張が入ったため、11月5日（金）にそれぞれ事務局から手渡しを行いました。
2. 水戸市道路管理課の課長補佐軍司様立ち会いで、引き渡し式が行われました。



認定書と銘板

3. 常陸太田市の助川建設課長立ち会いで梅原副市長に贈呈されました。



梅原副市長様へ



認定書と銘板

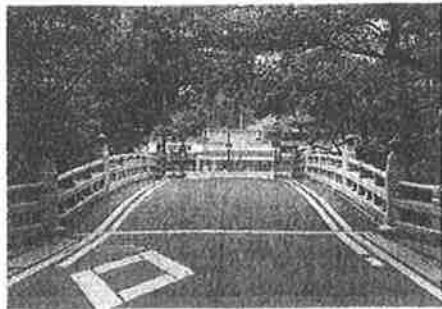


中央橋・認定書

大手橋と中央橋

「土木遺産」に認定

いばらき建設技術研究会(土木学会関東支部茨城支会)の推薦により、初めて県内2つの橋梁が、土木学会選奨の土木遺産として認定された。この2橋梁は、水戸市の大手橋と常陸太田市の中央橋(なかばし)。11月5日には事務局から両市へ認定書と銘板が授与された。両市では、近く銘板を橋に取り付ける予定。



大手橋(二の丸側から弘道館を臨む。水戸市三の丸)



中央橋(常陸太田市)

土木学会選奨土木遺産認定制度は、土木遺産の顕彰を通じて歴史的土木構造物の保存に資することを目的として、土木学会が平成12年度に設立した制度。

いばらき建設技術研究会が認定申請していたところ、ことし10月24日付けで土木学会本部から交付され、事務局では11月5日に水戸市道路管理課

と常陸太田市建設課へ、認定賞状や銘板を授与した。大手橋は、水戸市三の丸の市道205号線の上に架かる延長22・8m、全幅6・1mの橋梁。上部がRC、下部が橋脚高9・9m、一部石、イギリス積み煉瓦造り。初代の大手橋は17世紀の初め、水戸城の拡張に伴い水戸藩の政庁のあつた二の丸と三の丸とを、堀を渡り連絡する橋として大手門と同時期に建設。その後、幾多の架け替えが行われ、現在の橋は昭和10年にRC造りの橋として架け替えられた歴史ある橋。

一方の中央橋は、常陸太田市町屋町の旧棚倉街道(旧国道349号)に立地。里川に架かる延長34m、全幅6mのRC造ローゼ橋で、そのユニークな形から地域では「めがね橋」の愛称で親しまれている。